

このリリースは京都大学の記者クラブにも同時配布しています

PRESS RELEASE

報道関係各位



2020年2月13日

SOUSEI 株式会社

**住宅ビルダー事業を展開する SOUSEI 株式会社、
京都大学の住宅研究に関する実証事業に参加
～空調メーカーや住宅会社も協力、住宅建築の技術開発活用を目指す～**

SOUSEI 株式会社(奈良県香芝市、代表取締役：乃村亜紀 以下「SOUSEI」)は、株式会社 SOUSEI Technology、京都大学、OM ソーラー株式会社とともに、戸建住宅を対象にした居住者挙動調査を行う実証事業（以下「本事業」）を開始いたしました。

【目的】

日本における標準的な核家族世帯の住む戸建住宅を対象に、各種センサーを用いて住宅内における居住者の居場所や挙動の把握・分析を行い、当該住宅の間取りや温湿度などの室内環境との関係性について検討することが主な目的です。

【調査内容】

今回の調査は、奈良県香芝市、鳥取県鳥取市に位置するモニター宅を使用し実施されます。モニターの住宅には複数のセンサーを設置し、居住者の居場所や挙動をモニタリングします。各時間に住宅内のどの場所・部屋に居住者が滞在しているかを熱やマイクロ波によって検知する人感センサーにより記録し、住宅内の各部屋・場所の使用頻度や滞在率の把握を行います。また、どのような生活行為が行われているかを理解するために、家電の稼働状況の記録、モニターへのヒアリングも行います。

<使用するセンサー>

① 環境センサー

温度・湿度・照度・音圧などのデータを取得し、住宅内の環境や家電の稼働状況を確認します。

② ドップラーセンサー（非接触バイタルセンサー）

マイクロ波を使用し、非接触で人の在・不在を確認します。

③ モーションセンサー

人の方向、速度、相対距離を検知し、居住者の移動や通貨を確認します。

④ 熱源検知センサー

熱をもつ面積を検知し、滞在する人数を判定します。

【期待される成果】

本事業により、住宅内の共用スペースと個人スペースの使用頻度、時刻や季節ごとの傾向、住み方の傾向などを調査・研究し、居住者の生活習慣に適合したより快適な住まい及び暮らし方の実現を目指します。また、居住者の住み方（住まいの使い方）の特徴を理解することで、空調をはじめとする住宅設備や住宅 IoT デバイスを最適化し、住宅建築における省エネルギーや室内温度制御の自動化などの技術開発につながります。

【参加企業】

■ SOUSEI 株式会社

2010 年 7 月に奈良県香芝市に設立。設立 6 年で奈良県内注文建築数トップクラスに成長しました。香芝市を中心に年間 50 棟の注文住宅を手がけています。

所在地：奈良県香芝市すみれ野 1-1-7

代表者：代表取締役 乃村亜紀

事業内容：住宅ビルダー

URL：<https://www.sou-sei.com>

<コメント>

今回の京都大学様との実証事業を通して、住宅内における住まい手の行動を分析し、より現代の生活に最適化された間取りの提案を実現いたします。

■ 株式会社 SOUSEI Technology

住宅ビルダー事業において設立 6 年で奈良県注文建築棟数トップクラスに成長した SOUSEI 株式会社が 2015 年 7 月に新設した IT 事業部を 2018 年 8 月に独立し設立しました。マイホームアプリ「knot」と HOME OS「v-ex」など、住宅テックに特化した開発事業を展開しています。

所在地：東京都港区赤坂 6-4-10 赤坂 ZEN ビル 4F

代表者：代表取締役 乃村 一政

事業内容：マイホームアプリ「knot」開発・運営、住宅 IoT プラットフォーム「HOME OS v-ex」開発・運営

URL：<https://sousei-tech.com/>

<コメント>

本事業を通して住宅内における居住者の行動を理解し、住宅 IoT デバイス及び住宅テックサービスの開発に繋がりたいと考えています。

■ 京都大学 准教授 柳沢 究

京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授。1975 年神奈川県生まれ。2001 年京都大学大学

院修士課程修了。究建築研究室代表、名城大学准教授などを経て、2017年より現職。博士（工学）。一級建築士。アジアの伝統的居住空間のフィールド調査、住経験の研究、住宅の設計などに取り組む。主な著書に『住経験インタビューのすすめ』『住まいがたえる世界の暮らし』『初歩からの建築製図』など。設計作品に「あじまの家」「紫野の町家改修」「斜庭の町家」ほか。受賞に京都建築賞優秀賞、地域住宅計画賞、住総研実践・研究選奨ほか。

<コメント>

住まいの形には一定の型がありますが、その住まい方は人により実に多様です。ある家の中である家族が、どの空間をどのように使い住んでいるかを知ることが、建築学における長年の関心事です。リビングとダイニングは本当に活用されているのか、子供が切望した個室、苦労して設けた書斎はどうか、家の中で最も使用頻度が高い空間は廊下かもしれません。住まいの中での人の居場所や行動を、室内環境や設備機器の使用状況などとあわせて、解像度高くかつ経時的に捉えることで、人と住まいの新たな関係が見えてくるのではないかと期待しています。

■ OMソーラー株式会社

1987年、静岡県浜松市に設立。太陽熱利用製品の開発と、工務店への技術ノウハウの指導・提供を行う。現在、140社の工務店を組織化し、システム導入の累計実績は住宅27,800棟、施設建築750棟（2019年3月現在）。コーポレートタグラインに「太陽と、暮らしをつなぐ」を掲げ、つくり手と住まい手が一丸となった太陽エネルギーの普及を目指す。

所在地：静岡県浜松市西区村櫛町4601

代表者：代表取締役 飯田祥久

URL：<https://omsolar.jp/>

<コメント>

OMソーラーが開発・販売する全館空調システムを実証実験に提供しています。「全館空調+パッシブデザイン」による、より高いレベルの省エネの成果を期待しています。
